

れんげの^{くも}雲

酒 泉 彰 作詞
加羅古呂庵 一泉 作曲

れんげの雲くも

拙作「花咲く季節に」を聴いて、友人の酒泉 彰氏が歌詞を寄せてくださいました。れんげが花咲く田園の情景が浮かぶ美しい詩です。

春のあしたに野をゆけば
紫のれんげの雲が棚引きて
里山のせせらぎに陽は光り れんげ舞う
天つ風にゆらゆらと 海のように波打ちて

れんげ田は匂いかぐわし 花ぞ嬉しき
白くれないの梅の花 彩り添えし
桜の花あでやかに 織りなして錦の様
ふるさとの春は麗しき

陽の光燦燦と
見渡せば れんげの雲棚引けり

©2021 酒泉 彰

編成は、尺八と箏×2に歌をつけています。箏を弾きながら歌ってもいいですし、大人数で演奏する場合は、別パートとしてコーラス風にしてもいいでしょう。曲の構成は、古曲風に「前歌」「手事」「後歌」にしていますが、調弦は「花雲調子」で、全体に明るい雰囲気に行ってみました。「手事」部分は、箏Ⅰと箏Ⅱが絡み合い、それに尺八も加わります。テンポが速めのほうがおもしろく聞こえると思いますが、技量に応じた速さにしていただいてもかまいません。

梅の花は少し前に散りましたが、今は桜が満開です。近くの田んぼでは、れんげ草が一斉に咲き、風に揺れています。春が盛りを迎えようとしています。

1尺8寸管

尺八

口 ピ

箏Ⅰ

花雲調子

三 一 三 五 七 九 斗 為 巾

箏Ⅱ

花雲調子

三 一 三 五 七 九 斗 為 巾

運指、奏法については、適宜工夫していただいてください。